

船舶事故調査報告書

平成29年1月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年8月13日 10時40分ごろ
発生場所	広島県尾道市向島南方沖 大浜埼灯台から真方位100° 1,340m付近 (概位 北緯34°21.4′ 東経133°11.3′)
事故の概要	プレジャーボートドラゴン7丸は、北西進中、また、ミニボート（船名なし）は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年8月23日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート ドラゴン7丸、2.8トン 273-10993広島、個人所有 B ミニボート（船名なし）、長さ2.82m なし、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 操縦者B、操縦免許 なし
負傷者	なし
損傷	A なし B 船外機及び右舷船尾部に擦過傷等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風速 約1m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、船長Aが、右舷側を遊走する水上オートバイと衝突するのではないかと不安になり、右舷方を遊走する水上オートバイに注意を向けながら航行していたところ、B船に衝突した。 B 船は、操縦者B及び友人1人（以下「同乗者B」という。）が乗船し、機関を停止して漂流中、操縦者Bが、船首方から接近するA船を視認したが、これまでに他船がB船を避けて航行していたので、A船がB船を避けて航行するものと思い、船尾部で右舷方を向いた姿勢で釣りを続けていた。 操縦者Bは、A船が針路及び速力に変化がなく接近して来たので、A船がB船に気付いていないと思い、船外機を始動し、左回頭したものの、衝突を避けられないと判断し、同乗者Bと共に海に飛び込んだ。
分析	A 船は、船長Aが、右舷方を遊走する水上オートバイに注意を向け、左舷方の見張りを行っていなかったことから、船首方で漂流中のB船に気付かなかったものと考えられる。

	<p>B船は、操縦者Bが、船首方から接近するA船を視認した際、A船がB船を避けて航行するものと思い、衝突を避けるための動作が遅れたことから、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、船長Aが左舷方の見張りを適切に行っておらず、また、操縦者Bが衝突を避けるための動作が遅れたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。 ・ 漂泊中、接近する他船を認めた場合、避航の様子が見られないときは、余裕がある時機に、船外機を始動して移動するなど、衝突を避けるための措置を講じること。